

学びは常に玉川の丘に用意されています。  
通信教育部で学んだ先輩を中心に、現在の仕事や地域での活躍をインタビューします。

# 生涯学べ第14回 玉川の丘での師弟の出会いが宝物



**菅野直美** 日本郵便 札幌西支店勤務  
2000年通信教育部で学士学位取得（大学卒業、学芸員資格取得）

1991

正科生の学芸員コースで通大入学の年、初めての夏期スクーリングでの音楽の授業。「愛吟集」を手し、担当の江口正之先生と



九年前かかって大学卒業の学位を取りました。私はいま、札幌で郵便局に勤めています。郵便物に玉川の通信教育部宛のものを見つけたことがあって、思わず、「レポート頑張つて！」と声をかけてしまいます。

高校卒業後、北海道旭川のデパートに就職。売り場でいろんな方に接するうちに、何か自分に足りない気がして。勉強してもっと世界を広げたいと思いました。遠い玉川の通大で学ぼうと決めたのは、

得たのは大学の卒業証書だけじゃない、学ぶことの本当の意味を教えてくださいました

1992

北海道から玉川大学までは仲間と誘い合わせ、旅費の一番安いルートで。小樽～新潟を船、新潟から東京は高速バス。2年目の夏期スクーリング



1993

通大祭で北海道ブロックが見事優勝。地元のメロンや地ビールなどを取り寄せて販売もした。ブロック長も経験し、とても思い出深い1年



合格しないと単位は取れず、科目試験に通っても、寝る時間を削って書いたレポートは再提出なんてこともあって泣きました。

でも、北海道では札幌が科目試験会場になることが多くて、釧路や旭川、帯広などから来る仲間に出会えました。夜行列車で来て試験を受けて、帰る列車の時間ぎりぎりまで履修のことも勉強法や、仕事の悩みなどを話すんです。頑張っているのは自分だけじゃないとみんなの姿にどれほど励まされたか知れません。

そして、通大入学から五年目。まわりには小学校教員免許の取得目的で学んでいた人が多く、それぞれ採用試験に受かって、仲間も減っていく。大学卒業と学芸員資格取得をめざしていた私は、時間がかかることは覚悟していたけれど、とにかく八年の在籍期限で単位を積み重ねるため、仕事を短期アルバイトに替えて、学業に比重を置くことにしたんです。

ところが、ようやく卒業論文の八単位を残すだけとなり、米山弘先生の指導も受けて、提出期限までにまとめるところまで漕ぎつけ

地元で説明会があったご縁です。

一九九一年、二〇歳の春、札幌に転居、地図の製作会社に転職するのと同時に通大に入学。初めての夏のスクーリングにキャンパスで学ぶ憧れと期待を抱いて上京、開講式では玉川太鼓が響いていました。こんな回り道をした私でも迎え入れてくれる場所があるんだと感激した、あの夏の日の空気をよく憶えています。

スクーリング中は、授業が終わったら北海道ブロックの部屋に行

っていましたね。勉強を教えあつたり、通大祭の準備をしたり。お互いにすぐに親しくなりました。最初の年こそ飛行機で上京しましたが、以降は北海道ブロックの仲間と船とバスを利用。費用を切り詰めたのは皆同じで、スクーリング期間中、大学の近くで一軒家を借り、買い出しも自炊も当番制で共同生活もしたんですよ。二年には学生会書記、九三年にはブロック長も経験しました。私の宝箱のような「学生時代」です。

在宅の学習は、やっぱり孤独だし、仕事をして家に帰って勉強に集中するのはものすごく難しい。レポート提出と科目試験の両方に無事に卒業ができました。卒業式の謝恩会では代表の挨拶もさせてもらいましたが、ここにたどり着くまでの道のり、仕事と学業のこと、出会った先生と仲間たち、一気に思い出されて言葉に詰まりました。

いまの仕事は、通大時代に学業に専念するため選択したアルバイトから始まって、郵政短時間社員になって続いています。郵便が届くって人の気持ちが届くこと。通大の九年間で人とかかわることの深い意味を学んだ気がします。本当に無駄なことって何もない。一つひとつの出来事から学ぶものがありました。

一九九九年、再入学。翌三月に

## 通大の在籍者データ その①

玉川大学の通信教育部で学ぶ通大生は今年度5,393名（正科生+科目等履修生）。学士（教育学）の取得をめざす卒業コースや、幼稚園・小学校・中学校（社会）・高校（公民）の教員免許状の取得や、司書・学芸員・社会教育主事の資格の取得をめざして、それぞれが目標達成に向けて頑張っている。

神奈川県（1,473名）、東京都（1,267名）を中心に、全国で学ぶ通大生。単位修得のための科目試験は57都市213会場、学外スクーリングも7都市15科目を開講している。

## 地域別在籍者

